

( 電子メール施行 )  
農 技 第 1499 号  
令和2年 3月18日

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

令和元年度病害虫発生予察防除情報 第9号を下記のとおり発表します。

タマネギ圃場<sup>ほじょう</sup>で、べと病の一次感染株を確認しています。今後の二次感染を防止するため、圃場での発生状況を観察し、「越年罹病株の抜き取り」と「薬剤防除」を徹底するようご指導願います。

## 令和元年度 病害虫発生予察防除情報 第9号

### タマネギべと病の防除対策について

- 1 対象作物 タマネギ
- 2 病害虫名 べと病
- 3 発生地域 県下全域
- 4 発生状況・予想について

- (1) 淡路地域のタマネギにおいてべと病の越年罹病株（写真参照）の発生が確認されている。
- (2) 3月3日に現地調査を実施したところ、発生圃場率 8.3%、発病株率 0.04%であった（平年発生圃場率 4.9%、平年発病株率 0.05%）。現在のところ発生は限定的であるが、今冬は記録的な暖冬傾向であるとともに定期的な降雨があり、本病の感染に好適な気象条件が継続している。
- (3) 淡路島内の関係機関による調査においても、タマネギべと病の発病が確認されている。
- (4) 圃場内に発病が認められた場合、今後、気温の上昇及び降水量の増加に伴い、胞子の飛散による二次感染（写真参照）が拡大する可能性が高くなる。

### 5 本病の特徴について

- (1) 本病は卵菌類による病害であり、前年秋～初冬の苗床や圃場で土中の卵胞子が、降雨等により苗にはね上がり感染し、本田で越年罹病株として発病する。
- (2) この越年罹病株上に形成された分生子（胞子）が風雨で飛散し、二次感染が起こる。
- (3) 発病は気温 15℃前後で高湿度状態（曇雨天）が、1～2日続く場合に助長される。好適条件において病勢の進展はきわめて速い。

### 6 防除対策について

- (1) 圃場で発生状況を十分観察し、栽培暦やタマネギべと病対策マニュアル（技術者版）を活用して、越年罹病株の完全な抜き取りと薬剤防除を徹底すること。
- (2) 越年罹病株の抜き取りにあたって、その病徴は圃場内で徐々に発現してくるため、茎葉が繁茂するまで定期的に（1週間に1度程度）観察すること。また、胞子飛散を防ぐため、抜き取った株は直ちにポリ袋などに入れ、必ず圃場外へ持ち出した上で、残さ（抜き取った株）の重量に対して

1%の割合で石灰窒素を混ぜ、密封して確実に腐らせてから処分する。

- (3) 薬剤防除は、発病の有無にかかわらず、防除暦に従って必ず行う。散布は降雨前に薬剤が乾くように余裕をもって行い、散布ムラの無いように丁寧に行うこと。特に本年産タマネギの生育は旺盛であるので、タマネギの生育に応じた水量とし、薬液が十分付着するように散布する。
- (4) 極早生・早生品種及びネギ圃場で発生したべと病が、周辺の中生・晩生品種の感染源になるため、地域全体で防除対策に取り組むこと。特に、極早生・早生品種においても、収穫前まで確実に防除を徹底すること。



写真 タマネギべと病発病株（左：越年罹病株、右：二次感染株）

\*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載しています。

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222